

2011年10月21日(金)
午前9時半～午前11時半(予定)
森野分庁舎 2階 第3館会議室

第7回 町田市下水道ビジョン策定懇談会

次 第

- 1 パブリックコメントの結果について（報告）
 - ・実施期間 8月1月～8月31日
 - ・実施窓口 25箇所
 - ・意見等 0件

- 2 下水道ビジョンのまとめ

- 3 下水道アクションプランのまとめ

- 4 その他

下水道ビジョン 修正箇所

- ・ P.9 表1 高度処理化率

旧 成瀬クリーンセンター 13.6% 鶴見川クリーンセンター 0%

新 市全体 9.8%

- ・ P.25 図23

追加 7/14の水質測定データと注釈を追加

- ・ P.60 町田市下水道事業の経営の見直し

旧 2009年度末で、起債残高は約537億円となっています。これまでどおりの事業規模で整備を行うと、起債残高が現状よりも増え、下水道財政が悪化するものと予測されます。

このため、今後は毎年の起債発行額を抑制し、起債残高を削減する必要があります。

新 2009年度末で、起債残高は約537億円となっています。これまでどおりの事業規模で整備を行うと、起債残高が現状よりも増え、下水道財政が悪化するものと予測されます。

このため、耐震化や改築更新などを考慮した下水道資産の維持管理計画（アセットマネジメント）による事業費の平準化やライフサイクルコストの低減を図りながら、可能な限り、毎年の起債発行額の抑制に努め、起債残高の削減を目指していく必要があります。

下水道アクションプラン 修正箇所

・ P.1 下から6行目

旧 各事業を展開する上で重みをつけました。また、……

新 各事業を展開する上で優先順位をつけており、また、……

・ P.7 ② 市街化調整区域の適正な汚水処理の推進

旧 ……から基本設計を行います。その後、2014～2016年度の3ヵ年で周辺住民の意見を確認しつつ、法手続き（都市計画決定、下水道法及び都市計画法の事業計画策定）を進め、2017年度からの事業着手を目指します。

事業スケジュール：住民説明→法手続き

目標：2017年度事業着手

新 ……から基本設計を行います。そして、2016年度までに事業着手の準備完了を目指し、2014～2016年度の3ヵ年で周辺住民の意見確認と関係機関との協議を進めます。

事業スケジュール：住民説明・関係機関との協議

目標：2016年度手法の決定

・ P.8 ② 市民等利用者への働きかけ

追加 ◆ 下水道事業のPRの充実（P.13に詳細説明）

旧 事業スケジュール：維持管理システムの構築

目標：維持管理システム構築（2013年度末）

新 事業スケジュール：維持管理システムの稼動準備

目標：維持管理システム稼動（2014年度）

・ P.9 ① 温室効果ガスの削減

旧 汚泥を焼却した際に発生する*温室効果ガスの一つである*一酸化二窒素（ N_2O ）は、温暖化への影響が大きいガスであることから、温室効果ガス削減には最も効果的です。そのため、既に鶴見川クリーンセンターには導入済みの汚泥の高温焼却対応型焼却炉を、成瀬クリーンセンターでも焼却炉の更新にあわせ導入します。

これにより、発生する一酸化二窒素（ N_2O ）を二酸化炭素（ CO_2 ）換算で約2,600t/年削減します。

新 汚泥を焼却した際に発生する*温室効果ガスの一つである*一酸化二窒素（ N_2O ）は、二酸化炭素（ CO_2 ）の310倍もの温室効果があるため温暖化への影響が大きいガスで

あることから、その削減は温室効果ガス削減に最も効果的です。

そのため、既に鶴見川クリーンセンターには導入済みの汚泥の高温焼却対応型焼却炉を、成瀬クリーンセンターでも焼却炉の更新にあわせ導入します。

これにより、発生する温室効果ガスを二酸化炭素換算で約2,600t/年削減します。

・ P. 11 ① 町田污水幹線の耐震化

旧 ……に直結する重要な污水管から耐震化を行います。

現状：耐震化率 0%

目標：耐震化率 48%

新 ……に直結する重要な污水管から耐震診断を行い、必要に応じて耐震化を行います。

現状：—

目標：耐震性能を有する割合 48%

・ P. 11 ② 危機管理体制の構築—災害時の対応体制等を定めた下水道BCPの策定

旧 このような状況にも対応できる事業継続計画（下水道BCP）を2012年度内に策定します。

新 このような状況にも対応できる事業継続計画（下水道BCP）を2012年度内に策定し、職員の参集訓練など事業継続計画を管理・運用する事業継続マネジメント（BCM）を進めます。

・ P. 13 ③ サービスの向上に向けた取り組み—下水道事業のPRの充実

旧 新たに恩田川さくら祭りや町田エコフェスタ等を活用した下水道のPR活動を行います。

新 新たに恩田川さくら祭りや町田エコフェスタ等を活用して、正しい下水道の使い方など下水道事業のPRを実施します。

・ P. 18~20

修正 新基本計画、新行政経営改革プランと整合を図りながら、新年度予算も踏まえた財政見通しに修正

・ P. 18 4) 一般会計繰入金

旧 市の財政状況は今後も厳しい状態が続くものと推測され、2011年度実績と同額の25.5億円程度で推移するものと想定します。ただし、重点事業として行ってきた市

街化区域の污水管整備が 2013 年度で概ね終わることに伴って、一般会計繰入金が減ることも想定する必要があります。

新 市の財政状況は今後も厳しい状態が続くものと推測され、2011 年度実績 より1億円少ない24.5 億円程度で推移するものと想定します。

・ P.18 5) 市債

旧 一般会計繰入金 25.5 億円/年度で下水道事業の歳出を賄うには、市債をこれまでより 5 億円程度少ない年度 25 億円程度に抑える必要があります。なお、一般会計繰入金が減少した場合は、事業の選択と集中により、市債をさらに抑える必要が生じます。

新 一般会計繰入金 24.5 億円/年度で下水道事業の歳出を賄うため、市債をこれまでより 5 億円程度少ない年度 25 億円程度に抑えています。

・ P.20 1～4 行目

旧 2022 年度末までに起債残高を 510 億円に下げることが目標に、……予定です。 2017 年度以降は、重点事業として位置付けていた市街化区域の污水管整備が概ね終了することから、さらなる残高の削減に努めます。

新 2010年度末で約534億円の起債残高を2022年度末までに510億円に下げることが目標に、……予定です。 特に、重点事業として位置付けていた市街化区域の污水管整備や鶴見川クリーンセンターの処理施設の増設が終わる2015年度以降はさらなる残高の削減に努めます。

・ P.21 4 行目

旧 ○計画の進捗状況の 把握
各施策で定めた目標に対する年度毎の進捗状況を 把握し、 その結果を広報やホームページ等で公表します。

新 ○計画の進捗状況の 確認・公表
各施策で定めた目標に対する年度毎の進捗状況を 確認します。
また、 その結果を広報やホームページ等で公表します。

・ P.22 以降

追加 用語説明